

是非今知っておきたい！！「札幌報恩会の創始者って??」

創立100周年を来年に控え、私たちは創始者の小池九一先生を写真でしか見たことがありません。どのようなお人柄だったのでしょうか、そのエピソードは孫の山下太郎理事長にお伺いしました。



社会福祉法人札幌報恩会
理事長 山下太郎

創始者小池九一先生の思い出

札幌報恩会（札幌報恩学園）は、大正7年、制度や法律がない時代にスタートしており、創設者である小池九一先生の「こころいき」を伺い知ることができます。明年は、創立100周年を迎えることとなり、委員会が設立され、その準備がスタートしております。

本年、4月1日に「幌西ほうおん」が新たな事業所として、スタートしており、札幌報恩学園が誕生した由緒ある土地柄でもあり、地域の皆様の温かいご支援をいただきながら順調な運営が展開されております。障がいのある方も介護を必要とされる方も、ご家族を含め、その地域の中で、健やかに生活できること、それは、小池九一先生の「こころざし」の一つの実現でもあると思っております。「幌西ほうおん」には、「札幌報恩会100年の歴史」を掲示させていただいており、創設者 小池九一先生・スミさん についても簡単に紹介させていただいております。そちらもご覧いただければ幸いです。

小池九一先生の真骨頂

小学校を卒業する前に「丁稚奉公」に出され、13年の奉公あけと同時に、単身北海道にわたり、ゼロからのスタートを切っております。立派であると思うのは、独学で人格を陶冶され、小池家再興のため、郵便貯金に励んだことです。ひがんだり、ぐれたりせず、むしろ、両親や奉公先への報恩・感謝の気持ちを忘れず、困った人には、貯金の中から支援金を送ったりしていたようです。私のことは、小池スミさんや山下充郎先生に、おじいちゃん（小池九一先生）に似た人だと言われました。私が接することが出来たのは、10年間ですから、私自身にはその詳細を知る手立てはありません。

小池九一先生は、植物や動物を大切にされた！！

故郷の長野県より、「アカマツ」の種子を取り寄せ、育苗し、学園内はもとより、近くの小学校、高校にも分譲されたようです。「報恩園」という小公園を自ら作り上げた腕前は職人を上回るものでした。上野幌にも幌西にも現存しており、樹を育てることは、教育そのものという教えがありますが、まさに、体現されておられました。「カラマツ」も同様です。動物については、その頃は、どこの家も一緒だったと思われそうですが、ニワトリやヤギが庭で遊んでおり、卵や乳を食すことが出来ました。「忠犬ポチ」についても、願いを懇請し、実現させ、亡き後も、大切にされた心情と行動力には本当に頭が下がります。

小池九一先生とトマト

お元気な時は、自らが立派に育てておられましたが、亡くなられる前は、私が自転車で八百屋に買いに走りました。12月5日に亡くなりましたが、なんとか調達できたと、記憶しております。その遺伝なのでしょうか、山下幸子さんもトマトが大好きで、育てては、今も、届けるようにしています。

小池九一先生のお伴

当時、車はポピュラーではなく、学校がない日の外出は、私がおともしました。地元の名士であられたので、上座に座られ、その横にいつも私の席も用意されていました。

ものおじしない性格は、おじいさんのお伴が育ててくれたのかも知れません。ありがたいことです。